

東京四極だより

【書: 篠田直雄 東京四極会初代理事長・昭和3年卒 高商4回】

<http://www.tokyoshiwasukai.jp/>

発行者 野易之
責任者 奥川隆生
責任所 東京四極会
行集行 所
〒103-0007
東京都中央区日本橋浜町3-45-3
浜町野島ビル5F 浦崎税理士事務所内
TEL/FAX : 03-5641-1542

平成二十二年度 東京四極会 定時総会開催!

6月4日(土) 12時から42名の会員参加を得て本年度の定時総会を開催した。場所は例年通り渋谷区の代々木倶楽部である。司会担当は佐藤事務局長(第45回)。奥川副理事長(第50回)の開会の辞のあと、姫野理事長(第44回)が挨拶にたった。

「5月23日の監査の結果、帳簿並びに証券の処理は的確かつ適正に処理がなされている」と報告があった。有松監事は監査報告のあと「決算書をご覧のように、会費納入者数が年々減少に傾向にある。近年、価値観の変化もあって首都圏への就職数が減っていることも背景にある。同窓会活動は懐かしい面々の集まりであると同時に、人生経験を積んだ人材集団として異業種交流ができる場でもある。いろいろな工夫をこらしながら年会費を確保することは当面の大きな課題」とコメントした。22年度の活動報告と決算案は、満場一致で承認された。第2議案は平成23年度予算案審議。米井事



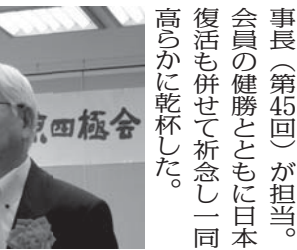
務局長が提案し、本件も満場一致で承認された。2年の任期を終えた姫野体制は、引き続き、次の任期も同じメンバーで継続する旨、理事長から提案があり、全員の賛意を得た。議事はこれで終了し、来賓挨拶に移った。



「大学として四極会活動にとり、東京での皆さんの活躍は大変な力になっている。今後も多くの会員の参加を得て東京四極会が発展されることをお祈りする。大分の話題を二つ。一つは平成27年の竣工予定で旧厚生学院跡地に県立美術館が建設されること。もう一つは、大分駅の高架事業が来年春に完成すること。駅ビルは平成26年に完成する。駅裏の再開発を含め大分市はこの頃に大きく印象を変えることになる。来年の90周年記念事業については鋭意準備中である。併せて募金活動を続けて



おり、是非、皆様のご理解とご協力をお願いしたい。なお、今回、四極会からは衛藤常務理事(第41回)も出席された。乾杯の音頭は高橋副理事長(第45回)が担当。会員の健勝とともに日本復活も併せて祈念し一同高らかに乾杯した。



姫野理事長挨拶

「東日本大震災では、東京四極会会員の中、福島県で2名、宮城県2名、岩手県1名の方々が罹災されたが電話で無事を確認した。また、4月1日に発行した会報・四極だよりの発送を一ヶ月遅らせた。私が住む茨城県でも余りに地震が頻発するので、故郷の大方の兄弟、親戚から「もう大分に移住して来んかい」と電話



成22年度の活動報告を、引き続き米井事務局次長(第54回)が「同年度の決算案(別紙参照)」の提案を行った。

まず姫野理事長が「平成22年度の活動報告を、引き続き米井事務局次長(第54回)が「同年度の決算案(別紙参照)」の提案を行った。

懇談の中で、衛藤参議院議員の代理として出席の柴原秘書から、先月の自民党外交部会で説明のため出席した外務省幹部の態度が悪いと衛藤議員が憤り、コップの水をかけた騒動の状況とその反響などを皮切りに議員の最近の活動を報告

引続きしばしば懇談のあと、恒例の校歌、寮歌、追遙歌を全員で高らかに歌い、遠藤事務局次長(第47回)の中締め挨拶と一本締めで懇親会は散会となった。

